



公益財団法人SAJ

SAJ Farm 通信

vol.36
2013年 7月号

公益財団法人
School Aid Japan

〒144-0043

東京都大田区羽田 1-1-3

TEL: 03-5737-2773

FAX: 03-5737-2793

<http://www.schoolaidjapan.or.jp>

.jp

事故の反省と農場の状況確認

皆様、最近の日本の暑さは東南アジアと一緒にそれ以上というお話ですが、いかがお過ごしでしょうか。カンボジアも40度近い気温の日が続き、雨季でありながら月の前半はほとんど雨が降らず、水田の水管理に追われていました。月の中ごろからは、ようやく雨が降り出したため、田植えやレモングラスの植え付けに目途をつけることができました。

1. 農場内での事故の発生について

今回、農場で大きな事故が発生してしまいました。管理人さんの長男であるアロー君が物置小屋を建てている際、手持ちの電動切断機を誤って自分の足に落としてしまい、大きな怪我を負いました。丁度一週間前に耕運機の使い方の説明を行い、機械を使う際には極力肌の出ない格好で長靴等を着用するようにと伝えていたため、事故当時は厚手の長靴を着用しており、幸い指切断にまでは至りませんでした。すぐに病院に担ぎ込み治療を行っていただきましたが、全治2か月～3か月かかるそうです。カンボジアでは一般的に仕事時にはサンダルを着用しています。私たちもその環境に慣れて安全に対する意識が薄れてしまっていたのかもしれない。

6月の末にプノンペン事務所のユット君やソンボワさんに同行してもらい農村部の調査を行いました。その際、耕運機などの機械の使い方を勉強したいという声も多く頂きました。今後SAJ Farmが活動していく中でカンボジア農業の機械化を進めるのは仕事の一つであると考えています。しかし機械化を進めるとともに農作業中の事故発生の可能性も上がっていきます。日本でも草刈り中に足を切ったり、トラクターで田畑へ出入りする際横転し下敷きになったり、機械の操作を誤り手足の指をなくしてしまう等の事故が毎年起きています。

来月機械の講習会を開催する予定ですが、機械の使い方を説明するとともに安全に関しても説明させて頂き、機械は便利だけれども危険がたくさん潜んでいるということをきっちりと伝えていくことが、今回の反省を踏まえた仕事であると感じております。

また、今回の事故を踏まえ、(有)ワタミファーム磯野社長より安全靴と作業手袋、ゴーグルのご寄附をいただきました。農場での作業や講習会では参加者に着用してもらい、今後事故が発生しないようにします。



農場で使用しているトラクター
便利ですが操作には細心の注意を
払います

2. 日本より門司社長と磯野社長が確認に来られました。

今月の末に日本よりワタミ手づくりマーチャンダイジング(株)門司社長と(有)ワタミファームの磯野社長が4月に来場された際話し合った計画の進捗を確認しにいらっしゃいました。たまたま農場へ向かう予定の日が野党の党首が外国よりカンボジアに戻ってきた日と重なってしまったため、プノンペン市内は大渋滞となりました。

与党と野党の双方がバイクや車で行列を作り、市内を「私たちに投票を」と呼びかけながら走り回ったためです。ほとんどお祭り状態であり、朝の通勤ラッシュを避けるため少し早めに出発はしたのですが、プノンペンから出るのに通常30分程度のところ2時間近くかかってしまいました。後日、人づてに聞いた話では4万人以上の人に参加していたようで、投票後も不正があった等何かともめているようです。

なんとか農場に着いた後、お二人と早藤君とともに圃場を回り、現状を確認して頂きました。その中で話し合ったことを下記に書かせていただきます。

① レモングラスについて

- ・作付面積はほぼ予定通りなので問題なし。株同士の距離が現状でいいのかを試験区の結果等を元に検討する。
- ・もうすぐ始まる収穫作業に向けて、レモングラスの古い葉を一度急いで刈りこむ。また除草作業も急ぎ、収穫に集中できるようにする。そのために人員をふやす。
- ・ビニールトンネルの試験の結果が良かったため、ビニールハウスを建てることを検討する。

② 水稻

- ・昨年度よりも継続して栽培している水田では稲の株が大きく良くなっている。
- ・作付の予定を早めに終わらせ、除草作業に集中できるようにする。

③ 鶏

- ・現状の20羽を何としても維持。数がある程度増えれば、それ以降数を増やすのが容易になるため。

④ 野菜

- ・作付はしてあるが、除草作業ができておらず状態がよくない。上井・早藤だけで管理するのではなく、カンボジア人職員である管理人さんをお願いして、管理してもらう。
- ・現状植えてある落花生と大豆の圃場を除草し、空いている部分に追加でナスやオクラ等の野菜を植えて試験を行う。

以上です。水稻やレモングラスの作付作業を中心に行っていたのと、水がたまって機械が入れなかった圃場もあったため、全体的には除草が遅れ気味という指摘を受けています。8月には孤児院の子どもたちが農場実習に来てくれることになっていますので皆に協力してもらい、何とか除草を追い付かせたいと考えています。

編集後記

カンボジア内も選挙で大騒ぎしています。日本と違い、投票に行くことは義務であるため国中の工場は休みになり、皆郷里に戻って投票します。今回は野党の人気が高いためプノンペン市内ではひと悶着ありそうですが、田舎である農場周辺は静かなものです。どちらが勝つにせよカンボジアの方々のためになることをして欲しいと思います。

上井